

集会アピール

東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生して2年目の今日。私たちは、さようなら原発・核燃の早期実現を願ってここに集いました。

福島第一原発事故の原因は、数十年先でないと分からないとされていますが、あの巨大地震と、想定外の津波によって、原発の機器類が壊れ、原子炉が制御不能に陥ったことは、疑う余地がありません。国は、事故を過小評価して、収束宣言を出しましたが、現在も、原子炉は極めて不安定な状態にあります。

福島県沖は、歴史的に何度も地震と津波に襲われた場所でありながら、その場所に原発を立地し、国が許可し、経済性優先で運転を続けてきたことが、そもそもの過ちでした。これを進めてきたのが原子力ムラであり、国は電力会社が意のままに原子力政策を捻じ曲げるのを容認してきました。彼らは反省することもなく、未だ原子力に固執しています。

福島では、今なお放射能汚染との戦いが続いています。瓦礫が山積みになり、汚染された土は庭に積み上げられたままです。国は、放射能管理区域とされている、0.6マイクロシーベルトを超える場所に、未来の日本を担う子供たちを、住み続けさせようとしています。放射能汚染の心配のない、安住の地を子供たちに保障することは、私達大人世代の義務です。それなのに、国費を投入した除染作業の多くで、ゼネコンや関連会社に利益を吸い上げられ、除染作業者は、被爆による健康不安を押し付けられています。国はこの過ちを糾(ただ)そうとしていません。

青森県に住む私たちは、福島で起きている事実を、自分のこととして考える必要があります。下北半島には、日本の原子力政策の歪みで生じた、各種の核のゴミを受け入れる、核燃料サイクル施設があります。高レベル放射性廃棄物は、どこにも行き場がなく、青森県に捨て置かれる恐れがあります。タンクに残された高レベル放射性廃液は、冷却機能の喪失で大事故を起こす恐れがあります。19回もの延期の末、今年10月竣工予定とされている六ヶ所再処理工場、現在停止中の東北電力東通原発1号機、建設を中断している東京電力東通原発1号機、フルMOX燃料で運転される予定の大間原発、むつ中間貯蔵施設、このどれか一つで事故が起これば、東電福島第一原発と同様、青森県全体が放射能汚染地帯となってしまいます。そんな故郷を、私たちは未来の世代に残したくありません。

大事故のきっかけは、下北半島を襲う巨大地震や津波や戦闘機の墜落、ヒューマンエラーかもしれません。六ヶ所再処理工場や東通原発の原子炉直下にある活断層かもしれません。国は原子力防災範囲拡大計画を立ててはいますが、私たちは、いつ事故が起きるか分からない不安の中で暮らしたくありません。原子力施設の再稼働は、絶対にやめるべきです。そのような危険に備えるため、国は原子力防災範囲拡大計画を立ててはいますが、私たちは、いつ事故が起きるか分からない不安の中で暮らしたくありません。原子力施設の再稼働は、絶対にやめるべきです。

大飯原発3・4号機の電気がなくても、国民の節電意識の高まりと、新エネルギーの導入努力で、私たちは、電力不足に陥ることなく、電力がピークとなる夏を乗り切りました。今、多くの国民が脱原発の実現を求めています。私たちがこれまで進めてきた、脱原発を求める1000万人署名は、青森県内で 117,593 筆(3/5 現在)、全国で 8,207,030 筆(3/4 現在) を達成しました。1000万人署名の目標達成に向けて、更に署名を積み上げていきましょう。

そして、子供たちの未来のために、エネルギー政策の転換と脱原発・核燃廃止を求め、全国の仲間と手を携えて、闘い続けていきましょう。

2013年3月10日

2013さよなら原発、核燃「3.11」青森県集会参加者一同